令和5年度　学校評価

甲府市立新紺屋小学校

～学校評価結果を今後に生かして～

日頃より、本校の学校教育推進にご支援・ご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。今年度は、５月にコロナ感染症が５類に移行したことにより、学校生活においても活動できることが増え、充実した日々を送ることができました。

毎年、さらなる学校教育の推進を目的とし、教職員、児童、保護者の皆様に学校評価を行ってもらっています。今年もご協力ありがとうございました。多くのお言葉もいただき、良いことは継続し、課題点は改善し、なお一層、精進しなければと思っております。

また、評価結果を学校運営協議会でも評価していただき、来年度に向けての改善策などご意見をいただきました。

創立１５０周年という節目の年であった今年度の学校評価を今後に生かし、築き上げてきた伝統を大切にしていきたいと思います。

令和６年３月

校長　中込　ひかり

4　あてはまる　　3　ややあてはまる　　2　あまりあてはまらない　　1　あてはまらない

項目	番号	評価者	質問紙項目	4	3	2	1	自己評価（取り組み状況・成果・課題）	改善策（◎は運営協議会からの提言）
学校生活	1	教師	学校教育目標や経営方針（重点）の共通理解が図られている。	78.9	21.1	0	0	昨年度と同様に，教師，児童，保護者とも肯定的な回答が９０％以上となっており，多くの児童が楽しく学校生活を送っている。一方で児童の否定的回答が約５％あり，学校生活に楽しさを感じることのできない児童もいる。肯定的回答が多いことだけにとらわれず，こういった児童に対してきめ細かい対応をしていく。	○「居心地のよい学級」づくりを推進し，一人一人の児童に寄り添った指導や対応を心掛ける。 ○ 学級担任だけでなく，全職員が様々な立場から児童に関わることで，多くの目で児童を育成する。 ◎ 肯定的意見が「多くなる」，「少なくなる」ことを考察することも大事だが，少数であっても否定的意見についてしっかり分析していく必要がある。
		児童	学校は楽しいですか。	67.1	28	4.2	0.7		
		保護者	お子さんは，学校に行くことを楽しいと言っている。	74.2	20.5	4.5	0.8		
安全	2・3	教師	登下校時の交通ルールや避難訓練など，児童の危機意識を高める指導や安全指導を行っている。	89.5	10.5	0	0	「児童アンケート「交通ルールを守り，安全に登下校していますか」，保護者アンケート「お子さんは，交通ルールを守り，安全に気を付けて登下校している」では，昨年度に比べ若干肯定的回答が減っている。また児童アンケート「地震や火事，怖い人への対応がわかっていますか」については99％の児童が肯定的な回答をいているのに対し，保護者アンケート「お子さんは，災害時等にどのように行動するか身に付いている」の肯定的回答が昨年度に比べ減っている。交通安全，防災等，自分の身を守る手段や方法，心構え等を考える機会を意図的に持っていきたい。	○ 交通安全指導については各学期の始めや終わり頃に定期的に実施に実施する。また避難訓練については様々なケースを想定し実施していく。 ○ 外部機関の協力を得て，防災や防犯について指導してきており，今後も計画的に防災意識を高めていく取り組みを行う。 ○ 学校で行う訓練等をHP等で情報発信していくことはもちろん，体験したことを家の人に話をするよう促したり，家族で防災・防犯に関わることを考える機会を提供したりしていく。 ◎ 消防署と連携した防災教室はとてもいい企画だと思う。今後も外部機関と連携しながら安全確保につながる資質を養いたい。
		児童	交通ルールを守り，安全に登下校していますか。	70.6	27.3	2.1	0		
		保護者	お子さんは、交通ルールを守り，安全に気を付けて登下校している。	79.5	17	3.6	0		
		児童	地震や火事，怖い人への対応がわかっていますか。	70.6	28	7	7		
		保護者	お子さんは，災害時等にどのように行動するか身に付いている。	28.8	48.6	20.7	1.8		

学習習慣	4	教師	基本的な学習習慣について共通理解し，継続的に指導している。	61.1	38.9	0	0	教師，児童，保護者とも昨年度と同様に95％以上が肯定的な回答であるが，児童アンケート「学校で学習するときの約束を守っていますか」では「あてはまる」の割合がやや減少し，「ややあてはまる」の割合がやや増加している。職員間でも基本的なルールを確認し，どの学年でも差違なく指導できる体制づくりを行う。	○ 学習習慣については，各学年，クラスが差違なく取り組むべく「新紺屋スタンダード」に沿った学習規律が確立されているか，職員，児童で確認する。 ○ お便り等で学校の様子を定期的にお知らせする中で保護者と連携しその確立をしっかりと図る。
		児童	学校で学習するときの約束を守っていますか。	49.7	46.9	3.5	0		
		保護者	お子さんは，学校で学習するための基本的習慣を身に付けている。	57.1	36.6	2.7	1.8		
学習指導	5	教師	校内支援体制が整えられ，個に応じた指導が効果的に推進されている。	73.7	26.3	0	0	児童，保護者アンケートとも肯定的回答が９５％を超えている。ＩＣＴ機器の活用が進み，それに伴い職員の研修の機会も確保しており，その成果があらわれているとも言える。引き続き校内研究などの機会をとらえて，「わかりやすい授業」づくりに務めていきたい。また否定的回答をして児童に対して，必要な手立てをとっていくことも必要である。	○ 授業については，今年度の校内研究でもその視点を取り入れた「全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現」を主軸として，授業改善に取り組んでいく必要がある。 ○ ICT機器を活用する力の育成や，教職員自身が研修等でICT機器をより効果的に活用できるようにしていく。 ◎ 授業が分かりづらいという児童が少数いる。こういう児童の声を丁寧に拾うことを大切にする。
		教師	ねらいを明確にし，一人一人の発達に配慮して児童の良さや特性を引き出し，楽しくてわかる授業を実践している。	44.4	55.6	0	0		
		教師	職員は研修・研究に努め，校内研究は，職員の共通理解のもと効果的に行われている。	63.2	36.8	0	0		
		児童	先生はわかりやすく教えてくれますか。	76.2	21	2.1	0.7		
		保護者	お子さんは，きめ細かな指導を受けて，授業の内容を理解している。	67.9	29.5	2.7	0		
協働的な学習	6	教師	児童同士で学び合える形態や教材等を工夫し，授業改善に取り組んでいる。	61.1	38.9	0	0	教師，児童，保護者とも昨年度と比べて肯定的な回答の割合が増加している。「主体的，対話的で，深い学び」の充実に向けて，自分の考えや意見を発表したり，他者の考えや意見を聞いて自分の考えをより深めていく等の活動を多く取り入れた授業づくりの成果が表れているととれるが，今後「あてはまる」と自信を持って回答できる児童の育成に力を入れていきたい。	○ 学習活動や生活体験の中で多様な他者と協働していく機会を意図的につくっていく。 ○ 意見交流の手段の一つとしてＩＣＴ機器を活用していく。
		児童	学級の友達の前で，自分の意見や考えを言いやすいですか。	49	40.6	8.4	2.1		
		保護者	お子さんは友達と関わり合い，楽しく学習している。	75.9	23.2	0.9	0		
読書活動	7	教師	読書の面白さに気づかせながら，読書に取り組めるよう指導・支援している。	66.7	33.3	0	0	教師，児童，保護者とも昨年度と比べて肯定的な回答の割合が減少している。「読み聞かせ」や「読書時間の確保」など読書推進の取り組みは行っているが，思うように読書習慣につながっていない。学校での活動の様々な場面で読書活動推進につなげられる働きかけを行う必要がある。	○ 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ，また担任教師以外の職員による読み聞かせ，図書委員による読み聞かせなど，本に親しむきっかけとなる取り組みを継続していく。 ◎ おすすめの本は図書委員だけでなく，子どもと色々な関係性を持った人が紹介していくのもよいと思う。また他のメディアに比べて，本の優位性を実感できると自然に本に向かっていく。
		児童	読書をしていますか。	52.4	34.3	11.2	2.1		
		保護者	お子さんは読書に進んで取り組んでいる。	31.5	37.8	23.4	7.2		

あいさつ	8	教師	児童会活動のあいさつ運動と連動し，教師自ら日々あいさつのある生活を送っている。	63.2	31.6	5.2	0	「あてはまる」の割合が減り，今後の課題となる項目となっている。この受け止めは保護者，児童とも共通している認識であると考えられる。コロナ禍において，あいさつを交わすことさえも憚られる状況を経験し，生活の中であいさつが当たり前にある環境ではなかった面もあるであろうと考えられる。今後児童会活動として取り組んだり，習慣化また他の場面でも自然に挨拶ができるよう環境づくりに務める。	○ 教職員が率先してあいさつを行い，あいさつが身近な生活にあたり前にある環境をつくる。 ○ 周囲に支えられながら学校生活を送ることができていることを再認識する機会をつくり，あいさつすることにつながるようにする。 ◎ あいさつは，「元気よくあいさつすること」がゴールではなく，あいさつがしたくなる関わり，関係を築いていくことに主眼をおくべき。
		児童	周りの人に進んであいさつをしていますか。	51.7	38.5	9.1	0.7		
		保護者	お子さんは周りの人に進んであいさつをしている。	37.5	40.2	20.5	1.8		
心の教育	9	教師	年間指導計画に従って道徳授業を実施し，思いやりの心を育てる指導を行っている。	72.2	27.8	0	0	教師，児童，保護者とも肯定的回答が非常に高い結果になっている。学校教育目標における目指す児童像「思いやる心をもち，協力しあう子ども」に近づくことができていると考えられる。今後更に道徳の授業の充実，また自己肯定感を高める取り組みなどを通して，一層の心の教育の推進を図っていきたい。	○ 道徳教育の更なる推進を図り，授業参観においても年1回は道徳授業を実施し，家庭と連携する機会を持つようにする。 ○ 特別活動や学校行事など，学校教育での様々な場面を捉えて豊かな人間関係づくりや自己肯定感を高めていける取り組み，活動を行っていく。
		児童	お友だちにやさしくしていますか。	66.4	30.1	3.5	0		
		保護者	お子さんに，思いやりの心が育っている。	67	32.1	0	0.9		
生徒指導・教育相談	10・11	教師	児童の悩みや相談を聞き，いじめ・不登校・問題行動等の予防や早期発見及び速やかな対応を行っている。	85	15	0	0	教師，児童，保護者とも肯定的回答が９０％以上となっており，学校と家庭が協調した生徒指導が成果を挙げているととることができる。しかし児童の「あまりあてはまらい」との回答が9.1%あり，課題となった。児童にとって学校がより一層安心して過ごすことができ，心を開ける場所る場所となるよう取り組んでいく必要がある。また児童，保護者に少ないながら相談しにくいとする回答もあり，課題である。より一層の学校と家庭の連携が必要になる。	○ 児童が安心して生活できる学級づくりを進める。 ○ 学級担任だけでなく，様々な立場で児童に関わる職員がいることで，児童が相談しやすい環境をつくっていく。 ○ 日常から保護者との連絡を緊密に行い，あわせて個別懇談などの機会を大切にする。
		児童	先生はいけないことをきちんと注意してくれますか。	66.4	30.1	9.1	0.7		
		保護者	先生は，いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	79.6	19.5	0.9	0		
		教師	学校は保護者にとって連絡や相談しやすく，適切に対応している。	78.9	21.1	0	0		
		児童	先生にいろいろなことを相談できますか。	49.7	36.4	4.9	1.4		
		保護者	学校に，家庭やお子さんのことを気軽に相談することができる。	67	28.6	3.6	0.9		

学校と家庭の連携	12・13	教師	教育活動や児童の様子をお便りやＨＰを通して，家庭や地域に知らせ理解を得ている。	84.2	15.8	0	0	教師，児童，保護者とも肯定的回答が９０％を超えている。ただ学校からの情報発信については，前年度より若干肯定的回答の割合が減っており，課題となった。学校の教育活動の様子を保護者と共有することで，より深く連携を図っていきたい。また児童が家庭において学校のことを話すとした割合は前年度より若干肯定的割合が増えており，家庭において親子のコミュニケーションがうまく取れていることが伺える。	○ 学校からの情報発信を活発に行えるよう，ＨＰを積極的に活用していく。 ○ 保護者に確実，また迅速に学校からの情報やお便りなどが届くよう，配信アプリなどを活用する。
		児童	学校からのおたよりを渡したり，学校であったことをお家の人によく話したりしている。	56.6	36.4	5.6	1.4		
		保護者	学校は，学校・学年通信等を通して，児童の様子を適切に伝えている。	67.9	26.8	4.5	0.9		
		保護者	学校の教育方針や活動内容について関心を持っている。	57.7	40.5	1.8	0		
地域連携	14	保護者	お子さんは，地域の行事に参加したり，地域の人と交流，連携している。	42.9	45.5	11.6	0	今年度新たに設けた設問であり，肯定的回答が多い，少ないという比較はできない。コロナ禍によりここ数年地域では行事や人的交流が制限され，つながりを実感できなかったが，今年度は新紺屋地区でも多くの地域行事が復活した。今後も地域とのつながりを大切にしていく必要がある。	○ 学校がある新紺屋地区は地域活動がさかんな土地である。思うような交流ができなかった期間も長かったため，これから積み上げていく必要がある。 ○ 学校運営協議会の提言などを参考に地域連携を図っていきたい。 ◎ 児童にはぜひ地域のつながりは大切にしてほしい。学校でも地域に積極的に地域行事に参加するように勧めてもらいたい。
		児童	地域の行事に参加していますか。	37.8	39.2	18.9	7		
		児童	地域の人に進んであいさつをしていますか。	42.7	38.5	18.9	0		
家庭生活	15・16・17	保護者	お子さんのノートや学習プリントなどをよく見ている。	42.3	51.4	6.3	0	家庭における保護者の教育への関心は高く，肯定的回答は昨年と同程度である。こういった家庭での親子の交流は，本校教育活動にも好影響を与えている。家での手伝いについては年々肯定的回答が減っている。なぜ手伝いがしづらくなっているのか検証する必要がある。	◎ 小学生も塾や習い事など年々忙しくなっている状況があるため，家庭と連携し，児童の家族内での役割などを考える機会をもつことが大切だと思う。
		保護者	お子さんは，学校のことや友達のことをよく話す。	57.1	33.9	8	0.9		
		保護者	お子さんは，家の仕事（手伝い）をよくする。	19.7	37.6	42.8	0		